問題解決領域の６領域解説

問題解決領域の定義と補足

問題解決領域	A. 応急処置型【問題解決】
定義	既に発生している解決すべき問題への対応。
情報システム業務での活用局面	１）運用業務における障害第１次対応 ２）開発プロジェクトにおける困難対応

問題解決例

川で溺れている子供を助ける。

問題解決領域	B. 再発防止型【問題解決】
定義	問題が再発しないように対策を講じる対応。
情報システム業務での活用局面	１）開発業務における契約強化 ２）開発プロジェクトにおけるリスクマネジメント ３）運用業務における類似障害の発生防止対策実施

「危ないから入ってはいけません」と看板を立てる。

問題解決領域	C. 受動型問題発見
定義	発生した要求への対応。
情報システム業務での活用局面	１）エンハンス（保守）業務における変更依頼対応

要求に応じて川を渡る舟を出す。

問題解決領域	D. 能動型問題発見
定義	問題の原因を究明して明らかにし、問題が発生しないようにする対応。
情報システム業務での活用局面	１）運用業務における障害原因の抜本対策実施 ２）開発業務における案件選択

川を埋め立てる。

問題解決領域	E. ボトムアップ型目的達成
定義	問題が当事者に認識されていて、現状の仕組みを改善する対応。
情報システム業務での活用局面	１）問題解決型システム再構築 ２）情報システム改善の企画

自分たちが渡る橋を作る。

問題解決領域	F. トップダウン型目的達成
定義	問題が必ずしも当事者に認識されていなく、トップや社会の要求で現状の仕組みを改革する対応。
情報システム業務での活用局面	１）トップダウン型システム再構築 ２）新技術（AI、IoT など）適用型システム開発の企画

電車が渡る橋を作る。